

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100184		
法人名	メディカル・ケア・サービス東北株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福島飯坂 2階		
所在地	〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字中ノ内7-1		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様とのコミュニケーションはもちろん、職員同士のコミュニケーションも充分に取れており、笑顔や笑い声が絶えないホームです。入居者様同士や家族・地域との繋がりを大切にし、1人1人が生きがいを 持てる様に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様同士とご家族、地域の人々との関わりを増やしその人らしい生きがいのある生活を送れるよう支援いたします。」をユニットの理念とし、スタッフ全員で考え作成し実践していた。平成24年1月に再度全スタッフの意向を聴きながら改定する予定です。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、季節の野菜や果物を頂いたり、幼稚園へ訪問しプレゼントを渡したりと日常的に交流している。3月11日の震災時には、食料や水を頂き、お互いに励まし助け合うことが出来ていた。また入居者様から感謝の気持ちを書いて、お渡ししている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時など、地域の人々より介護相談を受け、親身になってアドバイスを行っている。また年4回広報誌を発行し、ホームでの活動内容や『認知症とは?』など情報を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	行事・事故報告などを行い、ご家族様・民生員・地域包括支援センターの方々より意見や提案を頂き、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に福島市長寿福祉課と連携をとっており、課題などについて相談し、介護保険法の厳守を尊厳したサービスに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアを行なっている。施錠に関しては、夜間、防犯上の観点において行い、日中は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議にて虐待の研修を行っており、虐待が見過ごされる事のない様、全スタッフが意識してケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護制度など福島市地域福祉課様と話し合い、必要な方に対して活用できる様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて分かりやすい説明をすることで、理解・納得して頂いてから契約の締結を行っている。また不安や疑問点に関しても常時受け付ける旨を伝え対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・家族アンケートなどを通して、ご家族様や入居者様からの要望を頂ける様にしている。今年は3件の要望があり、サービスの向上に努めた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議・提案や改善案など気付いたことを用紙に書き提出する気づきBOX・年1回のスタッフアンケート・代表者と直接会談を行うハートフルパーティーを実施している。またホーム長とのヒアリングも実施。今後はリーダーとのヒアリングも行う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マイレポリューションプログラム(人事考課制度)やスタッフ表彰制度など、やりがいや向上心を持って働けるよう整備されている。また資格手当制度もあり、資格に併せた条件の整備も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極参加を勧め、ホーム内での伝達研修を行っている。また、エリア内にて新人研修やULスキルUP研修等を実施し、個人に合った各種研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を通じて、同業者の方との意見交換を行っている。また、法人内でも交換研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面談・ご本人の思いをセンター方式でアセスメントにて傾聴し、職員間で共有し安心を確保する為の関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時など、ご家族様の困っていることの傾聴他、今後のご本人の生活の方向性や現在ホームで出来る事など全てにおいて話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントより、必要とされるサービスの検討を行い、グループホームの利用という枠に囚われる事なく、他の介護サービスや地域資源の活用を一緒に検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、掃除や調理など入居者様が主体となって行える様、出来ないところを職員が介助することでお互いに協力し合った関係作りを行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン更新時には、ご家族様と一緒に現状の課題や支援方法について話し合っている。また行事への参加・通院を行って頂くことで関係を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など馴染みの方も気軽に来所して頂ける様、日頃から元気な挨拶を行うことで明るいホーム作りに努めている。また個別ケアを通して、ご本人の行きたい場所へお連れすることで、関係が途切れない様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の性格を把握し、コミュニケーションがとりづらい場合は、職員が間に入ることで、どなたとも関わり合える様働きかけている。また入居者様同士の助け合う姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も手紙や電話にて現在のご様子を伺ったり、相談を受けることで関係が途切れない様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中からお本人の思いや希望などの把握に努めている。また認知症の方専用の評価方式を使用したアセスメントを行うことで、ご本人の意向に合わせた暮らしを送って頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人から生活歴や現状の問題点・希望などの把握を行い、希望する生活の維持や実現に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を確認した上で、残存機能を活かしたケアに繋がる様、見守り・声掛けを行い、ご自身の『出来る』を最大限に活用した暮らしができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で実施した介護サービスを評価し、月1回のユニット会議を通して意見を上げ、ケアプラン提示時に、ご本人・ご家族様とも話し合いを行うことでプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアプラン・サービス提供項目と照らし合わせて個別記録に記入。また月1回のユニット会議や気付いたことを提案出来るシステムを通して情報共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様からは日頃の会話やアセスメント時に、ご家族様からはカンファレンスや面会時に要望を聴き出し、既存の考え方にとられないケアの方法を随時話し合い対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通してホームの状況をお伝えし、事故・災害時の応援をお願いしている。3月11日の震災時には町内会長や近隣の方・ご家族様から野菜や水を頂き、お礼に入居者様から色紙のプレゼントを渡した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様からの意向を尊重し、かかりつけ医への受診を行っている。また、受診時には看護師より適切な情報提供することにより、連携が図れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の他に、看護師が1人1人の体調を確認している。また、状態が変化した場合も24時間連絡を取れる様にしており、看護師・ホーム長・ユニットリーダーがいつでも駆けつけられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時にはすぐに対応が取れる様、病院関係者との関係作りを行っている。また入院の際も、定期的にお見舞いに行っており、医師・看護師・相談員の方と早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明をしており、また3ヶ月に1度のケアプラン更新時にご本人とご家族様の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救急救命講座の受講をしている。また、事故や急変に備えての研修を行うことで、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間の両方の設定で定期的に総合避難訓練を行っており、全職員が避難方法を身につけている。また、地元消防署様や地域消防団員の方との連携、緊急避難所の確保も出来ている。その他にも、初期消火についてなど、毎月のユニット会議で研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けや対応には充分気をつけ、信頼関係を築ける様にしている。また年上の方を敬う様、プライドや羞恥心を傷つけない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限りご本人の思いや希望を実現出来る様努めた。また日常生活の様々な場面で、入居者様に選択肢を与え自己決定出来る様促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様1人1人のペースに合わせ、就寝時間の自由や入浴時間等、介護側の都合や時間に縛られない生活を送れる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。また、定期的に出張理髪サービスの利用を行い、本人希望の髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	残存機能を活かし、可能な事は入居者様に行って頂いている。昼食時は、必ずスタッフ1人ずつ各テーブルに座り、会話を楽しみながら食事を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェックを行い、状態の把握に努めている。また、栄養士の作成するメニューに基づき栄養バランス等の管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、風邪予防のためにも緑茶うがいの声掛けをし、口腔ケアを行っている。義歯装着している方に関しては、夕食後、外して頂き消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をもとに、失禁の多い方や放尿の多い方の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行ないトイレでの排泄が出来るよう、援助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やカスピ海ヨーグルトを提供している。また、毎日午前・午後の体操や足踏みを行い、便秘の方に対しては腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の生活パターンに合わせて、希望の時間帯に入浴できるよう声掛け、介助を行っている。拒否が続いている時には、押し付けにならない様、スタッフで協力して声掛けの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの環境に近付けるよう、ご家族様に協力していただき、部屋に馴染みの物を置いて安心できる空間を作り、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、チェック表を基に確認し、内服前にスタッフ同士確認した後、ご本人様とも確認を行い、計3回の確認により誤薬防止を図っている。また、状態の変化があれば、看護師より医師へ確認後、薬の調節を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、一人ひとりに合った役割を持って頂き、必要な人材であることと、感謝の気持ちを伝える事で、生きがいへと繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の行事でドライブに出掛けたり、個別ケアを通してご本人の行きたい所へお連れしたりと、外に出る機会を作っている。また希望により外に行きたい時に出かけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人より希望がある場合は、ご家族様了承のもと、個々にお金を持って頂いている。また、お小遣いをホームで管理しており、欲しい物があればいつでも使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、ご家族様やご友人の了承のもと何時でも掛ける事が出来るようになっている。手紙に関しては、希望があれば、はがき等を用意し、いつでもやり取り出来るようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾を、入居者様と一緒に考えて作成し、季節感を感じて頂ける様にしている。共有の空間には、分かり易いよう案内の貼り紙をすることで、混乱を防いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は、居室が完全個室になっているため、居室にて過ごして頂いている。共有スペースにはテーブル席の他に畳とソファがあり、様々な入居者様と思い思いに過ごせるスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族様の協力の下、馴染みの物を居室に置く事で、生活の延長として居心地よく過ごせる空間にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には分かりやすいよう案内を表示し、自立した生活が送れるようにしてある。また、階段の他にエレベーターの設置があり、その方の個々の能力に応じて使い分けるようにしている。		